

Made in
IWATE

～メード・イン・岩手～

石 下

”イーハトーブ
が育む“

釜 石

奥 州

匠
の
技

盛 岡

P2~3 盛岡セイコー工業(時計製造)

P4~5 エヌエスオカムラ(オフィス家具製造)

P6 及源鋳造(南部鉄器)

P7 浄法寺漆産業(浄法寺漆)

P8 岩手県マップ

東北電力の地域に寄り添う取り組み

岩手山をはじめとする山々の美しさとリアス海岸が織り成す三陸の景観、平泉文化の繁栄を偲ばせる史跡群。様々な魅力を持つ岩手県は、宮沢賢治の造語で理想郷を意味する「イーハトーブ」のモチーフになったともいわれる。この地から生み出される、精密機械から工芸品まで全てが、イーハトーブと同じ、理想を体現したものだ。本特集では、その“理想郷”岩手が育んだ技術を追った。

雫石町

時計製造

盛岡セイコー工業

もりおかせいこうこうぎょう



雫石町

雄大なその姿から南部富士との異名を持つ岩手山。その麓に位置する雫石町は、広大な牧草地が広がる小岩井農場をはじめ、スキー場や数々の温泉などの観光資源を有し、高い知名度を誇る。ただ、この地が精密機械の製造に適した場所ということはありません。



代表取締役社長 竹中 雅人さん

わずかな異物の混入も許されない精密機械の製造には、きれいな空気と水が必要不可欠であり、雫石町はこの条件を満たしている。

その雫石町で、精密機械の代表格である機械式腕時計の製造を行っているのが盛岡セイコー工業。高級機械式腕時計の部品製造から組み立て、検査までを一貫して行う国内有数の時計専門工場だ。2004年には、時計組み立ての様子

をガラス越しに見学することができる「雫石高級時計工房」を設立。年間を通じて、数多くの見学者が訪れている。熟練の技能士たちの手から生まれる腕時計の品質と精度は世界最高水準。同社では、日本の腕時計ブランドの中でも最上級クラスに当たる「グランドセイコー」をはじめとした複数ブランドの機械式腕時計を製造していることからその高い技術力は証明されている。

代表取締役社長の竹中雅人さんは、世界最高水準の品質・精度を実現できた理由を「岩手の人々の勤勉で忍耐強い気質が、時計製造という仕事に合っていた」と説明する。



「雫石高級時計工房」で製造された「グランドセイコー」。技能士たちの繊細な技が詰まっている

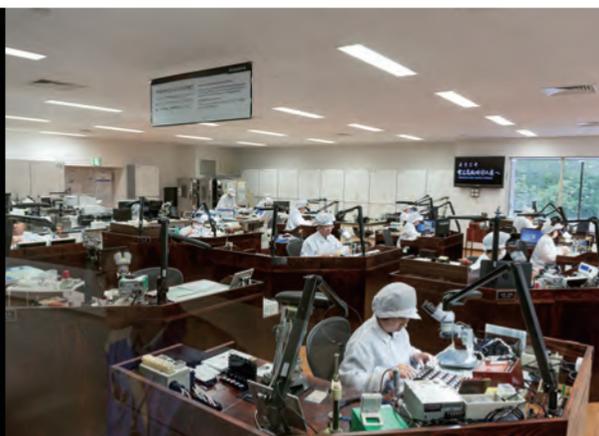
に使われている部品は2000を超える。ほとんどの部品を自社で製造しており、最も小さなねじの大きさはわずか0.35ミリだ。それらは手入の行き届いた機械や道具を技能士が操り、成形・切削される。少しでもずれが生じれば、もう部品としては使えない。マイクロメーター単位の精度が要求される非常に緻密な作業だ。そうしてできた精密な部品を



左/ムーブメントの組み立てに使う道具。ピンセットなど様々な道具を駆使して組み上げる 中/金属の棒や板を削り出し、時計の部品をつくり出す「自動旋盤」と呼ばれる作業 右上/高級機械式腕時計は、ペン先よりも細い非常に小さな部品からつくられる 右下/時計内部の基盤となる部品。さらにこの上に様々な部品が組み上げられていく

ムーブメントの組み立て作業の様子。マイクロメーター
単位の調整を繰り返しながら仕上げていく

国内でも数少ない一貫製造 岩手の気質もとに



左/美しく緻密な模様が彫り込まれた高級機械式腕時計「クレドール」 右/専用のクリーンルームで組み立て作業を行っている

間のずれをわずかに数秒に収める。
同社には「現代の名工」も所属する。
現代の名工とは、卓越した技能を持ち、
その道の第一人者と厚生労働省が認め
て表彰した人物のこと。組み立てや部品
に模様を施す彫金といった機械式腕時
計に関する技を極めた技能士だ。彼らは
同社の高い技術を維持すると同時に、講
師として指導を行うなど業界全体の後
進育成に貢献している。また、同社は名
工の下で若手が学ぶ仕組みも整えており、
その技術は確実に次世代に受け継がれ

ている。

機械式腕時計は、その部品の多さから
新製品の開発に相当な時間を要する。一
方で、人気の高まりなどを背景に、様々
な価格帯や新ブランドの展開など消費
者のニーズに合わせた商品開発は不可
欠だ。竹中さんは「多様化するニーズに
対応できるように技術を高めると同時に、
開発体制を整えていきたい」と力を込め
る。さらなる技術の高みへ、同社の歩み
は止まらない。

雫石の匠たちの手によって生み出さ
れる機械式腕時計。その小さなボディに
は多くの高度な技術が詰め込まれていた。
その技術に触れた後に見た時計は、より
一層輝きを増していた。

盛岡セイコー工業株式会社

設立：1970年

所在地：岩手県岩手郡雫石町
板橋61-1

ホームページ：
<http://www.morioka-seiko.co.jp/>



釜石市

オフィス家具製造

エヌエスオカムラ

えぬえすおかむら

釜石市



日本の近代製鉄発祥の地、釜石市。「鉄のまち」として名高く同市で、鋼材から生み出されるオフィス家具を製造している企業がエヌエスオカムラだ。オフィス家具業界でトップシェアを誇るオカムラのグループ会社であり、同社の製品は高品質の証である「オカムラ」ブランドとして全国で販売されている。



代表取締役副社長
さとう ゆたか
佐藤 裕さん

多彩な機能を持ったオフィス向けデスクや物品棚・移動棚、図書館用の書架などを製造する同社。全国のオフィスや店舗、公共施設など、あらゆるところで同社の製品は幅広く活躍。近年は魅せる収納や快適なオフィス空間の提案といった視点から、新製品の開発・販売にも取り組んでいる。

「高品質および省エネを実現した塗装技術とライン管理が一体となった高効率な生産体制」と同社の強みを語るのは、代表取締役副社長の佐藤裕さん。鋼板のプレス加工、溶接、組み立てなど様々なオフィス家具の生産工程の中で、同社が特に自信を持っているのが塗装技術だ。

同社の塗装技術を語る上で、東日本大震災による被災経験は避けて通れない。釜石港付近に立地していた

同社に、震災は甚大な被害をもたらした。津波により旧工場は全壊。工場建屋の4分の1が流失し、生産停止に追い込まれた。被災直後から泥上げや金型の搬出などを行ったものの復旧の目途は立たず、2011年6月には全国のオカムラの生産拠点到社員が散らばることを余



製品に加工される前の薄引き伸ばされた鉄板。これらをプレス・塗装して製品に仕上げる

震災乗り越え、独自の省エネ技術開発



左上/1日に2万点もの製品の塗装を行う 左下/塗装を終えたラックの支柱となる部分 右上/書類や文具など、オフィスのあらゆるものを効率的に収納できる電動移動書庫 右下/工場の全景。計算され尽くしたライン配置も高効率な生産体制の構築に一役買った

5

“イーハトーブ”が育む 匠の技

「現工場にはスペースの都合上、旧工場に2つあった塗装ラインを1つしか設置できなかった」と佐藤さんは生産再開後の状況を説明する。つまり、同社は早急に一製品当たりのコスト削減や生産効率の向上を達成しなければならぬ状況に置かれていた。



復興スタジアムに常設される座席。白い部分が、同社が製造した架台だ

「現工場にはスペースの都合上、旧工場に2つあった塗装ラインを1つしか設置できなかった」と佐藤さんは生産再開後の状況を説明する。つまり、同社は早急に一製品当たりのコスト削減や生産効率の向上を達成しなければならぬ状況に置かれていた。



震災で被災した旧工場。工場建屋の4分の1が流失し、操業停止に追い込まれた

のエネルギーを消費していた。そこで同社は独自の薬剤を開発し、これを塗布することで前処理を常温で行うことを可能とした。これにより、年間16%という大幅な省エネを実現。加えて、薬剤費や廃棄物処理費用も減少し、コスト削減を達成した。

独自の省エネ塗装技術を確立し、高効率な生産体制を構築した同社。16年度には東北の企業として初めて省エネ大賞最高位の「経済産業大臣賞」を受賞した。19年9月から始まるラグビーワールドカップ日本大会。「ラグビーのまち」としても知られる同市でも、2試合が開催される。全国に12ある試合会場で、新たに建設されるのは同市の「釜石鶴住居復興スタジアム」のみ。同社は現在、スタジアムに常設される5千もの観客席の架台を生産している。「鉄とラグビーのまち」でつくられる高品質の製品が、世界的イベントの開催も支えようとしている。

塗装ラインに製品を設置している様子。置き方一つで品質が変わる重要な作業だ



株式会社エヌエスオカムラ

設立：1991年
所在地：岩手県釜石市
鈴子町23-15
ホームページ：
<http://www.nsokamura.co.jp/>



溶かした鉄をそれぞれの製品に適した状態で鑄型に流し込む

自分たちの製品 世の中に



“上等焼”の工程を終えたばかりの鉄器。ものすごい熱を放っている

「自分たちの製品は伝統的な鉄瓶にとどまらず、ごはん釜やフライパンといった現代のライフスタイルに合わせたものなど様々。現在販売している製品の総数は800種を超える。工場に隣接するファクトリーショップも洗練された雰囲気、鉄器の新たな魅力や使い方を発見で

伝統的工芸品として名高い南部鉄器。平安時代後期に奥州藤原氏の下で栄えた平泉文化をルーツに持ち、その歴史は900年を超える。奥州市水沢地区は匠の技を脈々と受け継ぎ、現在も一大生産地として多くの製品を生み出している。「自分たちにしかつくれないものを、世の中に提供したい」と鉄器への思いを語るのは、代表取締役社長の及川久仁子さん。水沢地区の代表的な南部鉄器メーカーとして操業を続ける及源鑄造の5代目だ。



代表取締役社長
及川 久仁子さん

奥州市

南部鉄器

おいげんちゅうぞう

及源鑄造



奥州市



「自分たちの製品」という考え方を明確にし、「OIGEN」ブランドの下、次々と新たな製品の開発に取り組む及源鑄造。及川さんが入社した1980年代当時、南部鉄器の用途やデザインはどのメーカーでもほぼ一緒だった。この状況を消費者が本当にはしていないものを実感し、考えを一新し、及川さんは、デザイナーの一新やコンセプトを決めた商品開発に取り組んだ。その挑戦が結実した商品が99年に発売した「タミさんのパン焼器」だ。及川さんの祖母、近江タミ子さんのこだわりが詰まったこの製品は大ヒット。鉄鍋の中央に筒を施すことで、熱が均一に伝わり、ふっくらとしたパンを作ることが可能にした。「OIGEN」ブランドの名を全国に轟かせた商品の一つだ。

同社を代表する技法が「上等焼」。南部鉄器の鉄瓶づくりに用いられてきた「金気止め」という技法を進化させた



上／鑄型から取り出したばかりの鉄器。この後に研磨作業を行っていく 左下／鉄器の研磨作業の様子。不要な突起などを取り、滑らかな表面に仕上げる 右下／鉄器の原料となる「銑鉄」



写真は新商品の「タミパンクラシック」。「タミさんのパン焼器」をオープンだけでなくIHやガスコンロにも使えるように改良した

「愉しむをたのしむ」というメッセージを掲げ、消費者に鉄器の新たな愉しみ方を提供し続ける及源鑄造。及川さんは「OIGEN」ブランドを全国・世界にもっともっと発信していきたい」と語る。「自分たちの製品」に支えられたその言葉は力強い。

ものだ。鉄瓶を仕上げた後に高温で焼くことで酸化皮膜を形成し、さびにくくする職人技を、焼く時間や空気を調節することでより安定した皮膜をつくることのできるようにした。この技法でつくられた製品は、全く化学物質を使っていないにも関わらずさびにくく焦げ付きにくいため、国内外で高い評価を得ている。

及源鑄造株式会社

創業：1852年
所在地：岩手県奥州市
水沢羽田町堀ノ内45
ホームページ・オンラインショップ：
<http://oigen.jp/>



盛岡市

浄法寺漆

浄法寺漆産業

じょうぼうじうるしさんぎょう



盛岡市



代表取締役社長
まつざわ たくお
松沢 卓生さん

工芸品という言葉聞いて、まず漆器を思い浮かべる人は多いのではないかと。その歴史は縄文時代までさかのぼり、漆は、天然の接着剤や塗料として日本人の生活を支えてきた。漆の持つ深い色つやは見る者を魅了するだけでなく、普段使いの道具としての実用性も高い。

日本を代表する文化、漆の生産量全国1位を誇るのは岩手県だ。実に国内生産量の7割を占める。県北地域の二戸市浄法寺周辺が主な産地で、そこで生まれた漆は「浄法寺漆」と呼ばれる。その品質の高さから地元で伝統的工芸品である「浄法寺塗」の漆器をはじめ、各地の漆器、中尊寺金色堂や日光東照宮などの文化財の修理に使われている。しかし、国産漆は危機



左/グッドデザイン賞を受賞した漆とガラス器を組み合わせた製品 右/漆掻き職人による漆の採取作業の様子

的な状況に置かれている。国内で流通する漆の98%は海外産の上、採取を行う漆掻き職人は後継者不足に苦しむ。国産漆の生産量が需要量に対して全く足りていない現状にある。そのような状況の中、2009年に誕生したのが浄法寺漆産業だ。漆の精製や販売、漆製品の企画や製作などを行っている。代表取締役社長の松沢卓生さんは元県職員。仕事で漆産業の振興に携わるうち、浄法寺漆の魅力を国内外へ発信する企業が必要と考え、同社を創業した。



バンパーなど車の内外装に漆を使用した特別車

トヨタ自動車と協力し、内外装に漆を使用した特別車を製作・展示した。このほかにも、JR東日本の豪華寝台列車「四季島」の内装に同社の漆塗りが採用されるなどの実績を持つ。

「国産漆を次世代に伝えるには、人々に身近に感じてもらうことが何より大切」と力説する松沢さん。同社が漆の新たな活用法の開発に積極的に取り組むのも、漆との接点の増加が目的の一つだ。

一方で、10年以上かけて育てた漆の木から取れる漆はわずか200g。しかも一度採取したらその木は伐採される。それだけ貴重なものだが、活用法が増えるほど漆の必要量も増加する。だからこそ同社が懸命に取り組んでいるのが、漆の苗木づくりや植樹。事務所の前に並んだ漆の苗木から、国産漆を次世代に伝えていくことへの強い決意が伝わってきた。



上/岩手の素材と職人で作り上げた「巖手椀」 下/車のステアリングに国産漆による本格的な塗りを行った。唯一無二の逸品だ

国産漆 次世代に伝える

株式会社浄法寺漆産業

創業：2009年
所在地：岩手県盛岡市
本町通3-6-1
ホームページ：
<http://www.japanjoboji.com/>



職人が器に浄法寺漆を塗りつけている。保温性が高い漆器は食器として最適だ



雫石町 盛岡セイコー工業

同社に関連する代表的な製品が展示されているショールーム

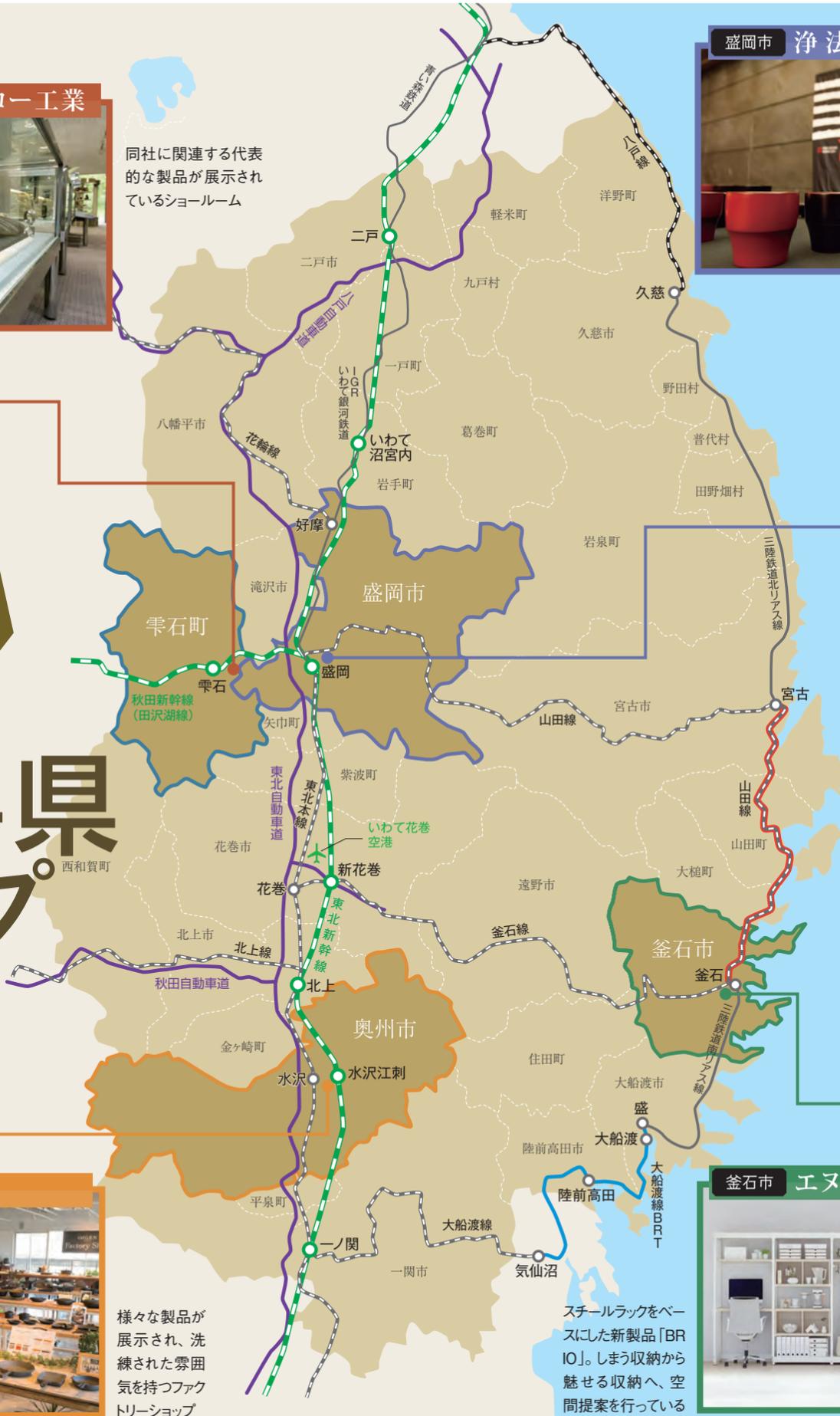


盛岡市 浄法寺漆産業

海外の展示会にも積極的に出展し、国産漆の良さを発信している



岩手県マップ



山田線(宮古～釜石)は三陸鉄道へ移管の上、2018年度内に開通予定



奥州市 及源 鋳造

様々な製品が展示され、洗練された雰囲気を持つファクトリーショップ



釜石市 エヌエスオカムラ

スチールラックをベースにした新製品「BRIO」。しまし収納から魅せる収納へ、空間提案を行っている

東北電力

地域に寄り添う 取り組み

東北電力の岩手県内各事業所では、コーポレートスローガン「より、そう、ちから。」の実現に向け、地域活性化などに寄与する様々な取り組みを展開している。

岩手支店*では、各種団体からの要望や地域の祭事に合わせ、別館屋上にある無線マイクロ鉄塔のライトアップを実施。ライトアップは青、緑、橙、白の全4色。医療法人や障がい者支援団体などが行う啓発活動にあわせた点灯のほか、盛岡を代表する祭り「盛岡さんさ踊り」などの開催期間には、色を5分間隔で変えグラデーションさせるなど、カラフルな色と光で盛岡の夜を彩ってきた。担当者は「鮮やかな色と光が皆さまの心を照らし、城下町盛岡を元気にできれば」と地域への思いを語る。

また、盛岡営業所*では、「盛岡さんさ踊り」で着用する浴衣を新調したのを機に、昨年11月、古い浴衣約200着を盛岡市内の福祉施設へ寄贈した。寄贈先の一つである「幸呼来Japan」は、障がいを持つ人たちが中心となり、使い古した布を細かく裂いて織り直す「裂き織」と呼ばれる技術により、カラフルな小物入れやスカーフの生地などを製作し、話題になっている。寄贈に対し、同社代表取締役の石頭悦さんは「裂き織に織り込まれている『もったいない』と『モノを愛おしむ』気持ち、どちらも大事にしつつ、頂いた浴衣を活用したい」と感謝の言葉を寄せた。

東北電力では、今後も「地域に寄り添う」様々な取り組みを展開していくこととしている。

*6月30日時点の組織名称



無線マイクロ鉄塔のライトアップの様子



幸呼来Japanへ寄贈した浴衣